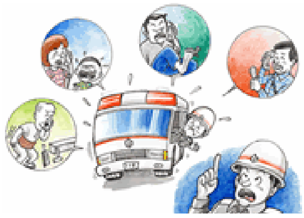
救急車の呼び方と正しい利用の仕方

富山県東部消防組合魚津消防署救急係長　山海嘉明（さんかいよしあき）

今回から、富山県東部消防組合魚津消防署救急隊の業務や現場活動などを５回の連載で紹介します。今では、救急車は地域住民には身近になってきており、毎日のようにピーポーサイレンを耳にしているかと思います。その身近になった救急車の呼び方と正しい利用の仕方についてお話しします。

救急車の呼び方　慌てず落ち着いて、はっきりと！伝えましょう。

1. 119 番　通報します。（携帯電話も同じ番号です。）
2. 「救急です」と伝えてください。
3. 住所（市町村名から）または目印を伝えてください。住所地番が分からなければ、近くの大きな建物や交差点など目印になるものを伝えてください。
4. 事故や傷病者の状態を説明してください。その際に質問をしますので答えてください。
5. あなたの名前や電話番号も伝えてください。
6. 救急隊より電話で指示された手当などがある場合はご協力下さい。
7. サイレンの音が聞こえたら、救急車の誘導に協力してください。



本当に救急車が必要ですか？

救急車の適正利用のお願い

近年、救急車の出動が増えています。その中で、単なる酒酔いや「病院が分からないので・・・。」、「救急車で行けば早く診てもらえるから・・・。」など緊急性が低いと思われるケガや病気による要請も少なくありません。つまり救急搬送の約半数が軽症の方を搬送しているという現状もあります。このような搬送が重なると、緊急に病院へ行く必要がある重症者のもとへの救急車の到着が遅れ、助かるはずの大切な命を救えなくなってしまう可能性があります。出動できる救急車の数は限られていますので、大切な命を救うために、緊急性のないケガや病気はなるべく自家用車やタクシーの利用をお願いします。

〇次のようなときは迷うことなく救急車を要請してください。

- 意識がない
- 痙攣が続いている
- 激しい胸痛がする
- 呼吸困難である
- 激しい腹痛が続く
- 大量の吐血や下血がある
- ケガの出血がひどい
- 腹部を強く打って、痛みが強く、嘔吐や吐き気がする
- 広範囲なやけど
- 頭を打ったなどの理由で意識状態が悪い
- 事故などで、手や足の一部または全部が麻痺している（脊髄損傷）
- 呼吸停止で人工呼吸または心肺蘇生法が必要

これら以外でも判断に迷うときや、緊急に病院へ搬送する手段のないときは救急車を要請して下さい。

富山県東部消防組合魚津消防署　救急隊員
救急係長　山海嘉明さん（写真後列中央）

魚津消防署の救急救命士は、富山労災病院で定期的に研修や実習を行っています。